

(仮訳)

プレス・リリース

2022年9月13日

中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループは、バーゼルⅢを完全かつ可能な限り速やかに実施することへの期待を再確認するとともに、気候関連金融リスクと暗号資産に関する今後の作業の方向性を提示

- バーゼル銀行監督委員会(以下「バーゼル委」)の上位機関が、バーゼル枠組みの全ての要素を整合的かつ可能な限り速やかに実施することを改めて確認
- バーゼル委に対し、気候関連金融リスクと暗号資産に関する作業の方向性を提示
- バーゼル委の作業計画をレビューし、実施を促進するための安定した規制枠組みの重要性を再確認

バーゼル委の上位機関である中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループ(以下「GHOS」)は、9月12日に会合を開催し、バーゼルⅢの実施に対する期待を再確認するとともに、バーゼル委の主要な作業分野に関する方向性を提示した。

多くの法域におけるインフレの再燃は、マクロ経済見通しの悪化や金融環境の引締めと相まって、金融システムに蓄積された脆弱性を露呈する可能性がある。世界の銀行システムは、世界金融危機後に実施されたバーゼルⅢ改革の効果もあり、これまでのところ概ね強靱であったが、GHOSメンバーは、銀行及び監督当局が引き続き新たなリスクや脆弱性を注意深くモニタリングし、評価し、軽減することが重要であることを強調した。過去2年間にわたって銀行を損失から守るために重要な役割を担った公的支援策の解消は、銀行セクターが潜在的なショックを吸収するための強靱性をより強調することとなる。

バーゼルⅢの実施

こうした状況を背景に、GHOSメンバーは、未実施のバーゼルⅢ改革の実施状況を把握した。2017年に最終化されたこれらの基準は、世界金融危機によって顕在化した規制枠組みの弱点のいくつかに対処することにより、銀行資本の強靱性を強化しようとするものであり、その中には、リスクアセットの過度なばらつきを抑

制し、銀行のリスクベースの自己資本比率の比較可能性と透明性を向上させることなどが含まれる。これらの弱点に対処することは、パンデミック以前と同様に、今日でも重要である。

3分の2を超える法域は、2023年または2024年にすべての、または大半の基準を実施することを計画しており、残りの法域は2025年にバーゼルⅢを実施することを計画している。特に実施の遅延の影響を受ける技術的な基準の数は限られている。

GHOSメンバーは、国際的に活動する銀行に対して規制面での公平な競争環境を提供するために、バーゼルⅢ枠組みのすべての要素を完全かつ統合的に、可能な限り早期に実施するという期待を全会一致で再確認した。これらの銀行は、今後のバーゼルⅢの実施に向けた準備を継続すべきである。

バーゼル委の作業の優先事項

GHOSはまた、気候関連金融リスクと暗号資産に関するバーゼル委の作業をレビューした。前者については、GHOSメンバーは、現在気候関連金融リスクに焦点を当てているバーゼル委の作業範囲を再確認し、開示、監督および/または規制に関連する潜在的な措置を策定・評価するためのバーゼル委の包括的なアプローチを承認した。暗号資産に関しては、メンバーは、銀行の暗号資産エクスポージャーに対する頑健で健全な規制枠組みを設計し、金融の安定を維持しつつ責任あるイノベーションを促進することの重要性を再確認した。GHOSはバーゼル委に対して、そのような枠組みを本年末頃に最終化するように指示した。

また、GHOSのメンバーは、バーゼル委が現在進めている、既に実施されたバーゼルⅢ基準の銀行システムの強靭性及び行動への影響評価作業を確認した。メンバーは、バーゼル委の評価作業の結果に関連するあらゆる政策・監督上の示唆を検討する前に、未実施のバーゼルⅢ改革の実施に焦点を当てることの重要性を強調した。